

# 琉球大学学術リポジトリ

## 鶏の白血病と育すう

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19907">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19907</a>

# 鶏の白血病と育すう

鶏を飼っている人は、必ず、肝ばれ病のあることや、中ヒナ、大ヒナの時期にいわゆる脚弱症の起ることを経験なさることと思います。これが即ち、白血病の症状であります。鶏の居る処に必ず白血病があるといわれる位全世界に広がっている病気で、アメリカでは、既に五〇年も前に此の病気の報告があり、白血病だけを研究している研究所もあつて貴重な研究報告を出していますが、日本では一般の注意をひくようになつたのは近年のことのように思います。

この白血病というのは、養鶏家に大きな損害を与えているにもかかわらず、急激に多数の鶏が死ぬということがないので、一般の注目をひかなかつたものと考えます。

それでは一体、白血病とは、どんな病気でしょうか。

この病気は、非常に複雑で、よくわかつていないのですが、細菌よりも、もつと小さい、いわゆるウイルスによつて起る病気で、赤血球や白血球に異状をきたすために発生するといわれます。

ここでは、沖繩によく発生している内臓型、神経型、眼型、骨型の四つについて簡単に説明したうと思ひます。

一、**内臓型**、一名、肝肥大症ともいわれ肝のはれるのを特徴とします。ふ化後四週位から発生しますが、死ぬ率の最も多いのは、若雌の産卵が最盛期に入つた頃で、その後は、死ぬ率は減少していきます。本病は、急性と慢性がありますが、成長中の鶏では、元気がなくなり、羽をたれて死にます。若雌なら産卵を中止し、間もなく死にます。又長

い間、元気がなく、やせて死んでしまう慢性のものがあります。病気が進行すると冠が小さくなり、顔が青くなり、白いねばねばの尿が尻の羽毛をよこします。解剖の結果は、肝臓、心臓、腎臓の肥大とその色が暗赤色や灰色に近い色まで種々の病的色に変わつて見えるのが見られます。

二、**神経型**、いわゆる脚弱症の型で最も発生が多いのは、ふ化後二カ月から六カ月のヒナで、片方の脚を前に出し、片方を後に伸ばして、坐つたまま歩くことが出来ません。病気が軽い場合には脚がふらふらしている程度のこともあります。消化器に分布している神経も侵されますから食欲減退して衰弱します。飼や水を与えておくと快復することもあります。

三、**眼型**、両方の目あるいは片方の目が盲になつてしまふ病気で、沖繩でも発生しています。健康な鶏の目の色は、赤だいたい色で、きれいですが、此の病気に侵されると目の色が青灰色となり、目の玉(虹彩)の形が変わつて小さくなり、あるいは円い目玉が、不正になり遂に失明します。勿論盲のため飼料や水を充分摂取出来ないから、段々衰弱します。

四、**骨型**、極めて稀に発生しますが、脚の骨がふくれて歩くことが困難になり、病気が進むと翼の骨も、ふくれるといわれます。この病気もだんだん衰弱して死にます。

以上述べた何れの白血病も、伝染するもので、鶏から鶏へ、一つの養鶏場から他の養鶏場へとひろがつていくわけです。内臓型の伝染原は、保菌鶏の産んだ卵にあるといわれます。勿論糞の中や唾液の中にも病原が含まれています。神経型のものは育すう中に伝染することが多いといわれます

## 治療法

本病に対する予防液も免疫血清もまだつくられて居りません。又効果のある薬品もなく、抗生物質さえも効果はありません。稀に快復するといいますが、然し病鶏は思ひきつて淘汰した方がよいでしょう。

予防法としては、育すう時期に、成鶏と隔離して育成することが大切で、育すうする人と成鶏管理者が別々の人で成鶏管理者は育すう室に入らず、又育すうする者は成鶏舎に入らないことが望ましく、止むを得ず、成鶏管理者が育すうを兼ねるときは、ヒナに飼や水を与える際は、手をよく洗ふこと器具類等は成鶏と別にして成鶏からの伝染を防ぐことが大切です。成鶏には、病気を持つていように見えなくても、保菌鶏がいて病気の伝播をするのがあるから注意が肝要です。

本病に対し、非常に抵抗力の強い系統と抵抗力の弱い系統があります。米國コーネル大学の試験では、同一条件で飼育しても抵抗力の強い系統は、僅かに三%死んだに過ぎないが、抵抗力の弱い系統は五〇一六〇%死んだという報告があります。ですから白血病に対する抵抗力の強い系統を選び出して系統繁殖を続けると本病の発生は非常に少なくなるといわれています。これからの種鶏飼養者は、抵抗力の強い系統を作出する努力がなされねばならないと思ひます。

以上私は、育すう時期を前にして、将来多くの被害を予想される白血病にふれて来たわけです。現在、私も此の病気に少なからず悩まされて居ります。白血病のみならず、コクシジウム病、ジフテリア等の予防のためにも、ヒナと成鶏の隔離、鶏舎の消毒を完全にして、ヒナに病気が発生しないよう万全の策を講じたいものです。